

令和元年度 決算のあらまし



市制130周年



ラグビーワールドカップ2019関連事業



かごしま環境未来館



かごしま市のロゴ・ブランドメッセージ展開

目次

- 元年度の主な事業実績・・・・・・・・・・P 1
- 元年度決算の状況・・・・・・・・・・P 3
- 一般会計決算額の内訳・・・・・・・・・・P 4
- 健全化判断比率と資金不足比率・・・・・・・・P 7

令和元年度の主な事業実績

「市民が主役の鹿児島市の実現」に向け、次の7つの基本政策の推進に重点的に取り組みました。

1 人が行き交う魅力とにぎわいあふれるまち

① サクラジマアイランドビュー事業〔68,538千円〕

外国人を中心とする乗客数の増加やニーズの多様化に対応するため、増便や、新たなコースの運行を開始したほか、大型専用車両を導入し、観光客の受け入れ体制の充実を図りました。



③ ラグビーワールドカップ地域交流事業〔4,054千円〕

④ ラグビー南アフリカチーム鹿児島キャンプ受入事業〔25,705千円〕

ラグビーワールドカップ2019における南アフリカ代表チームのキャンプを受け入れ、チームと市民との交流を行いました。



② 北前船寄港地フォーラム in 鹿児島開催事業〔18,968千円〕

北前船ゆかりの地が交流する北前船寄港地フォーラムを開催し、交流人口の拡大と産業の振興を図りました。

このほかにも、次の事業を行いました。

- 新島利活用事業
- 桜島・錦江湾ジオパーク推進事業
- 磯新駅設置支援事業
- 路面電車観光路線検討事業
- クルーズ船誘致・受入事業
- ラグビーワールドカップ誘客促進事業
- 鹿児島ユナイテッドFC活動支援事業
- 鹿児島市版DMO推進補助金
- 国体等おもてなし事業
- など

2 健やかに暮らせる安全で安心なまち

① 幼児教育無償化事業〔161,489千円〕

幼稚園の預かり保育、認可外保育施設等を利用する児童の保育料等を無償化し、給付や補助を行いました。



② 麻しん・風しん予防接種事業〔12,440千円〕

麻しん・風しんの発生及びまん延予防のため、予防接種歴のない未成年者を対象に、麻しん風しん混合ワクチンの公費での接種を実施しました。

③ 障害者・児相談支援専門員配置促進事業〔12,300千円〕

新たに相談支援専門員を増員する事業所に対し、経費の一部を助成しました。

④ 桜島大規模噴火対策事業〔21,570千円〕

桜島の大規模噴火に備え、桜島住民の島外避難計画の見直しを行うとともに、市街地側住民の近隣市町への広域避難要領等を計画に盛り込みました。

このほかにも、次の事業を行いました。

- 安全な保育環境充実事業
- 不妊専門相談センター設置事業
- 介護予防・生活支援サービス（訪問型住民主体サービス事業）
- 長期入院精神障害者の地域移行推進事業
- 避難行動理解促進事業
- 現地災害対策本部機能強化事業
- 大学生等消防団加入促進事業
- など

3 水と緑が輝く人と地球にやさしいまち

① 燃料電池自動車普及促進事業〔1,984千円〕

水素エネルギーの普及促進に向け、公用車に燃料電池自動車を導入するとともに、事業者の導入に補助を行いました。

② 家庭ごみの高齢者等戸別収集サービス（まごころ収集）事業〔1,950千円〕

家庭から排出されるごみ・資源物を自らごみステーションに運ぶことが困難な高齢者及び障害者等に対し、戸別収集を開始しました。

③ かがしま環境未来館リニューアル事業〔125,515千円〕

かがしま環境未来館の展示物等のリニューアルを行いました。

④ 加治屋まちの杜公園（仮称）整備事業〔359,789千円〕

市立病院跡地において中心市街地の回遊性の向上に資する、新たな潤いの拠点となる加治屋まちの杜公園（仮称）の整備を進めました。



このほかにも、次の事業を行いました。

- かがしま環境未来館蓄電池設置事業
- 新南部清掃工場（ごみ焼却施設・バイオガス施設）整備・運営事業
- コミュニティサイクル運営事業
- かがしま市民みんなであつなごう「COOL CHOICE」推進事業
- フラワー・パートナー事業
- 武岡公園整備事業
- 名水サミット開催事業
- など

4 地域産業で若者や女性が活躍できるまち

①企業立地推進事業〔120,894千円〕

アンケート調査を基に本市への立地可能性がある企業を中心に訪問活動等を行うとともに、市内製造業に対する補助要件の緩和を行うなど、企業立地を推進しました。

②カゴシマクリエイティブライブ2019@シブヤ開催事業〔7,657千円〕

クリエイティブ産業振興の取組等を全国へ情報発信するため、渋谷区において、クリエイティブ産業の振興をテーマとした「鹿児島・渋谷クリエイティブシンポジウム」を開催しました。

③留学生人材確保推進事業〔1,143千円〕

鹿児島島の産業や事業所への理解促進を図り、卒業後も鹿児島島で活躍する有能な人材を確保するため、留学生を対象とした職場見学会を開催しました。

④農林水産物PR事業〔5,160千円〕

市内での各種イベントや渋谷区で開催されたイベントで、市内産農林水産物のPRを実施しました。



このほかにも、次の事業を行いました。

- 若者就職応援フェア「みらいワーク「かごしま」」開催事業
- 海外販路拡大ステップアップ支援事業
- クリエイティブ産業創出拠点施設企画運営事業
- 農業担い手育成対策事業 など

5 学ぶよろこびが広がる誇りあるまち

①次世代を切り拓く青少年育成事業〔6,367千円〕

グローバルな人材を育成するため「かごしま創志塾」において、新たに塾生の海外派遣を行いました。



②新・郷中教育推進事業〔28,070千円〕

対象校区を拡大し、これまでの60校に加え、新たに18校で放課後子ども教室を開設しました。

③かごしま近代文学館・メルヘン館及び美術館駐車場整備事業〔61,047千円〕

近代文学館・メルヘン館及び美術館の駐車場を整備し、来館者の利便性向上に努めました。



④DV対策基本計画推進事業〔1,969千円〕

デートDV講演会の開催や、学生向け啓発誌改訂などにより、DVの予防啓発に努めました。

このほかにも、次の事業を行いました。

- 小学校における英会話活動の推進事業
- 校舎・屋体等整備事業
- パークゴルフ場整備事業
- 鹿児島市体育協会法人化準備負担金
- 国民体育大会等準備事業
- 女性活躍推進事業 など

6 市民生活を支える機能性の高い快適なまち

①中央町19・20番街区市街地再開発事業〔3,107,809千円〕

②千日町1・4番街区市街地再開発事業〔913,114千円〕

③まちなか図書館（仮称）整備事業〔8,191千円〕

2つの再開発ビル本体工事等に対し助成するとともに、千日町再開発ビル内における「まちなか図書館（仮称）」の基本計画を作成しました。



④鹿児島駅周辺都市拠点総合整備事業〔1,160,852千円〕

鹿児島駅の自由通路や駅前広場、上本町磯線の整備等を進めるとともに、新駅舎の供用を開始しました。



⑤団地再生推進事業〔9,575千円〕

活力ある団地への再生に向けて、地域住民等とのワークショップや具体策の検討等を行いました。

このほかにも、次の事業を行いました。

- 土地区画整理事業の推進
- 谷山地区連続立体交差事業
- 新交通バリアフリー基本構想推進事業
- 公共交通不便地対策事業
- 空き家等対策事業
- 都市公園建設事業 など

7 市民と行政が拓く協働と連携のまち

①町内会加入促進モデル事業〔4,287千円〕

町内会の加入促進に寄与するモデル事業を選定し、その実施経費を助成しました。

②市制130周年記念事業〔10,577千円〕

鹿児島市制130周年にあたり、本市がさらに大きく飛躍するための契機として、式典の開催やテーマ曲を制作する記念事業を実施しました。



③かごしま市のロゴ・ブランドメッセージ展開事業〔8,933千円〕

本市の魅力を表現したシンボルマーク「マグマシティ」を様々な媒体でPRするとともに、事業者等へ活用の働きかけを行いました。

④光ブロードバンド整備促進事業〔280,162千円〕

地域情報化を推進するため、光ブロードバンド未整備地域において整備を行う事業者に対し事業費の一部を助成しました。

このほかにも、次の事業を行いました。

- 町内会加入促進事業
- ネクスト「アジア・鹿児島」イノベーション戦略推進事業
- シブヤでかごしまフェスティバル開催事業
- 次期総合計画策定事業
- 本庁舎整備事業 など

令和元年度 決算の状況

区 分	歳入 (A)	歳出 (B)	形式収支 (C=A-B)	翌年度繰越財源 (D)	実質収支 (C-D)
一般会計	2,714 億 6,116 万円	2,652 億 1,188 万円	62 億 4,928 万円	18 億 6,656 万円	43 億 8,272 万円

区 分	歳入 (A)	歳出 (B)	形式収支 (C=A-B)	翌年度繰越財源 (D)	実質収支 (C-D)
特別会計	1,281 億 8,766 万円	1,307 億 7,366 万円	△25 億 8,600 万円	21 万円	△25 億 8,621 万円
土地区画整理事業清算	580 万円	117 万円	463 万円	0	463 万円
中央卸売市場	15 億 9,857 万円	15 億 8,354 万円	1,503 万円	21 万円	1,482 万円
地域下水道事業	5,549 万円	4,973 万円	576 万円	0	576 万円
桜島観光施設	2 億 5,545 万円	2 億 5,545 万円	0	0	0
国民健康保険事業	655 億 5,517 万円	687 億 1,657 万円	△31 億 6,140 万円	0	△31 億 6,140 万円
介護保険	528 億 3,638 万円	523 億 8,469 万円	4 億 5,169 万円	0	4 億 5,169 万円
後期高齢者医療	76 億 6,722 万円	75 億 9,192 万円	7,530 万円	0	7,530 万円
母子父子寡婦福祉資金貸付事業	2 億 1,358 万円	1 億 9,059 万円	2,299 万円	0	2,299 万円

区 分	収入 (A)	支出 (B)	差引 (A-B)
企業会計	478 億 4,360 万円	471 億 4,912 万円	6 億 9,448 万円
病院事業	218 億 3,119 万円	220 億 6,216 万円	△2 億 3,097 万円
交通事業	43 億 7,964 万円	49 億 6,446 万円	△5 億 8,482 万円
水道事業	113 億 9,236 万円	98 億 7,023 万円	15 億 2,213 万円
工業用水道事業	727 万円	603 万円	124 万円
公共下水道事業	79 億 3,392 万円	76 億 7,541 万円	2 億 5,851 万円
船舶事業	22 億 9,922 万円	25 億 7,083 万円	△2 億 7,161 万円

※ 企業会計は収益的収支を税抜き額で表示しています。

【ポイント】

一般会計は、歳入額から歳出額を差し引いた額（形式収支額）は62億円ですが、ここから翌年度で支払わなければならない繰越財源18億円を引いた額（実質収支額）は、44億円となり、前年度に引き続き黒字を確保しました。

特別会計は、国民健康保険事業特別会計において32億円の赤字となりましたが、令和2年度からの繰上充用で対応しました。また、その他の特別会計は黒字又は収支均衡となりました。

企業会計は、病院事業、交通事業、船舶事業において赤字となりましたが、その他の企業会計は黒字を確保しました。

一般会計

市の会計の基本であり、福祉、医療、教育や道路・公園の整備など基本的な行政サービスを行う会計です。

主な収入は、市税や国・県支出金などです。

特別会計

特定目的のための会計で、国民健康保険税や介護保険料など特定収入があり、一般会計から切り離して、その収入・支出を管理する会計です。

〔元年度 8 会計〕

企業会計

地方公営企業（市立病院、交通局、水道局、船舶局）の会計で、民間企業と同じように、事業で収益をあげて運営する会計です。

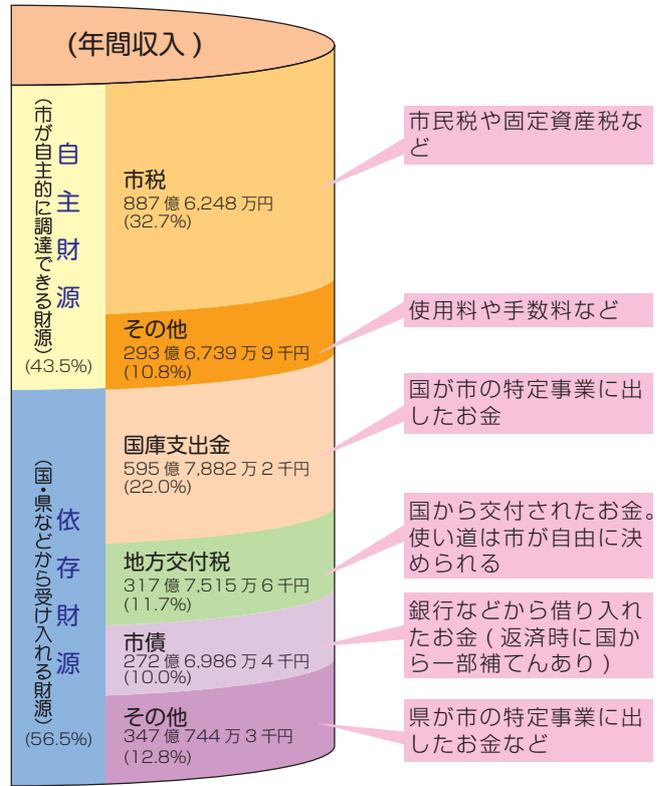
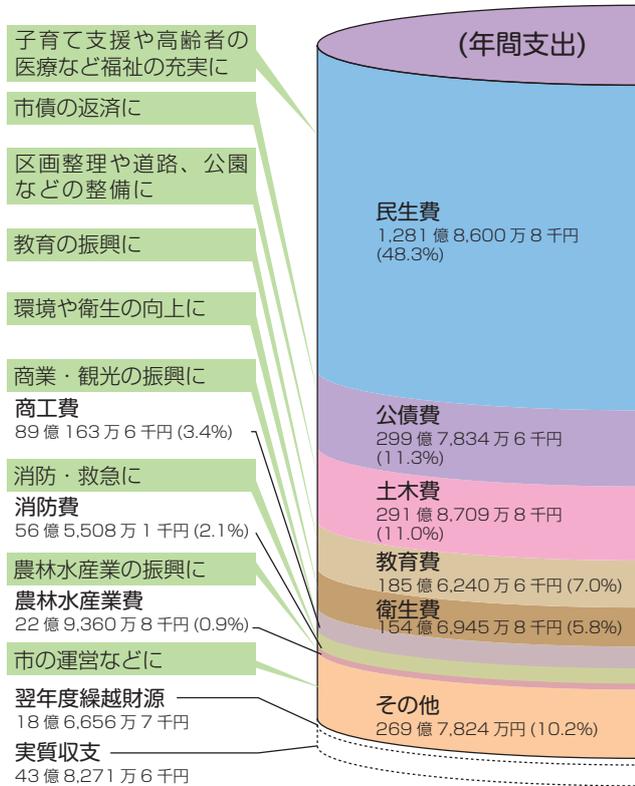
〔元年度 6 会計〕

一般会計決算額の内訳

歳入：国庫支出金が増加
歳出：民生費が増加

歳出
2,652 億 1,188 万 1 千円

歳入
2,714 億 6,116 万 4 千円



【歳出のポイント】

歳出総額は、2,652 億円で、前年度比 159 億円 (6.4%) の増となりました。

歳出で最も多いのは、社会保障関係経費である子育て支援や生活保護費などに使われる民生費の 1,282 億円で、前年度と比較し、77 億円 (6.4%) の増となりました。民生費の一般会計全体に占める割合は 48.3% となりました。

【歳入のポイント】

歳入総額は、2,715 億円で、前年度比 147 億円 (5.7%) の増となりました。

歳入で最も多いのは市税の 888 億円で、固定資産税の増などにより、前年度と比較し、14 億円の増となりました。この他、市街地再開発事業の増に伴う国庫支出金が 70 億円の増となりました。

市民 1 人当たりの使い道は？

1 人当たり約 44 万 1 千円のうち、福祉の充実に約 21 万 3 千円

一般会計の歳出決算額 2,652 億円の使い道を市民 1 人当たりに換算してみました。

市民 1 人当たり 約 44 万 1 千円の使い道

○子育て支援や高齢者の医療など福祉の充実に
約 21 万 3 千円



○市債の返済に
約 5 万円



○教育の振興に
約 3 万 1 千円

○商業・観光・農林水産業の振興に
約 1 万 9 千円



○消防・救急に
約 9 千円

○区画整理や道路、公園などの整備に
約 4 万 8 千円



○環境や衛生の向上に
約 2 万 6 千円

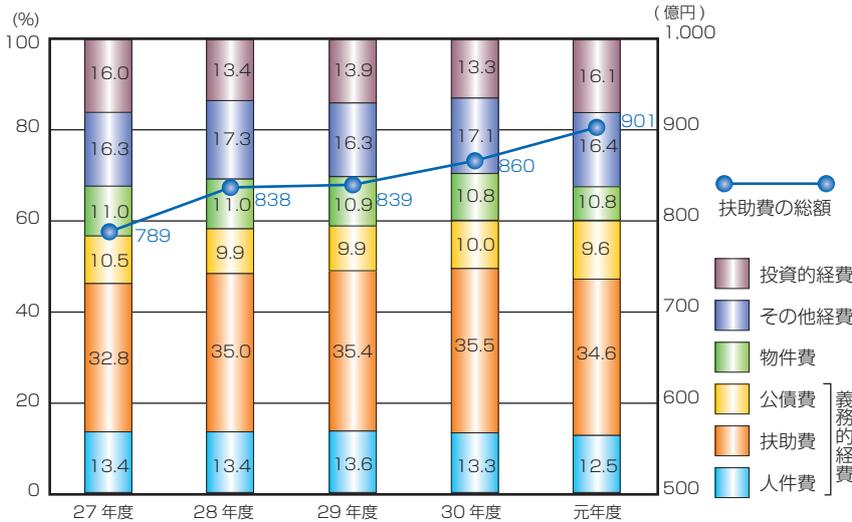


○市の運営などに
約 4 万 5 千円



歳出決算（性質別）の推移（普通会計）

扶助費は年々増加



【歳出決算のポイント】

生活保護や子育て支援、高齢者の医療などの扶助費が、前年度に引き続き増となっています。元年度決算では、全体の34.6%を占めています。

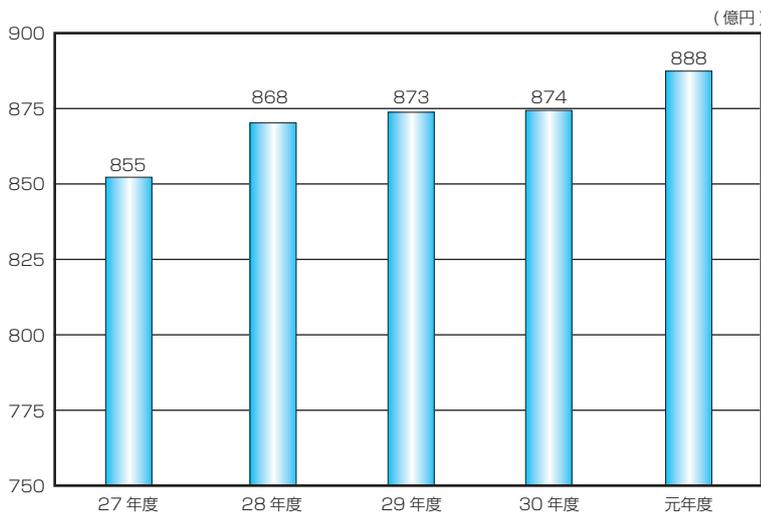
■用語メモ

「普通会計」とは、各市町村の決算状況を統一的に比較するために地方財政統計で用いられている会計区分です。

鹿児島市では、一般会計のほか、土地区画整理事業清算、地域下水道事業、母子父子寡婦福祉資金貸付事業の3特別会計を合わせたものです。

市税の推移

元年度は前年度より14億円増加



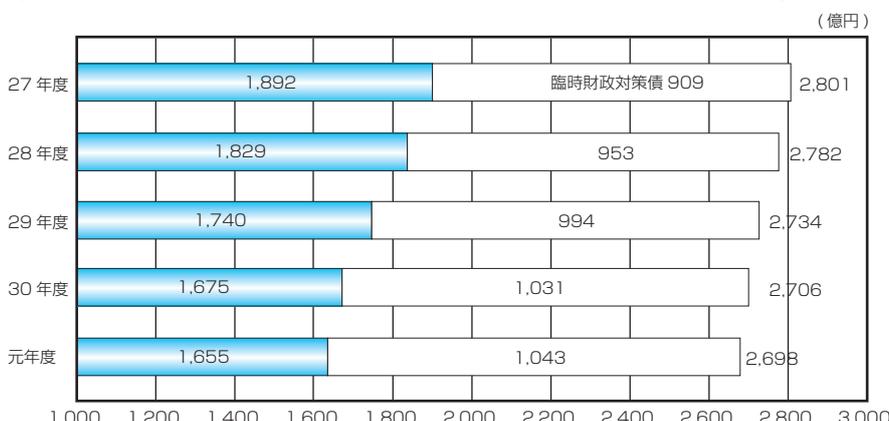
【市税のポイント】

市税は鹿児島市のまちづくりを行うための最も重要な財源で、市民税や固定資産税、都市計画税などがあります。

元年度決算は、固定資産税が増加したことなどにより、前年度より14億円増の888億円となり、歳入全体の33%を占めています。

市債残高の推移

実質的な残高は減少傾向



(1) グラフの右部分は実質的な地方交付税である臨時財政対策債です。

(2) 左部分は臨時財政対策債を除いた残高です。

【市債残高のポイント】

市債は、道路や公園などを整備するにあたり、将来の市民の皆さんにも公平に費用負担をしていただくため、また、返済時に国から地方交付税が配分される観点から発行しました。

臨時財政対策債を除く実質的な市債残高は、前年度より20億円減少しました。

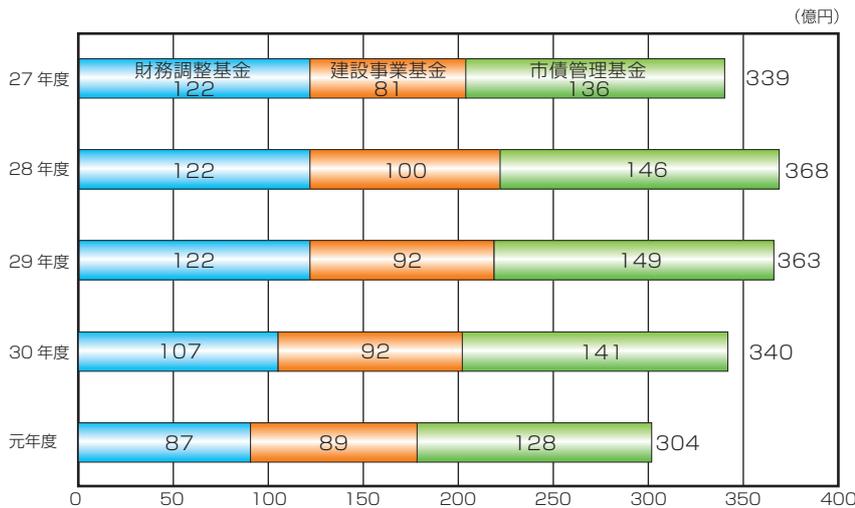
(市民1人当たり28万円となりました。)

■用語メモ

「臨時財政対策債」とは、本来は地方交付税として、国から配分されるお金を国の財政上の都合で市が借りているものです。返済はすべて国の負担です。

基金残高の推移

元年度は前年度より 36 億円減少



【基金残高のポイント】

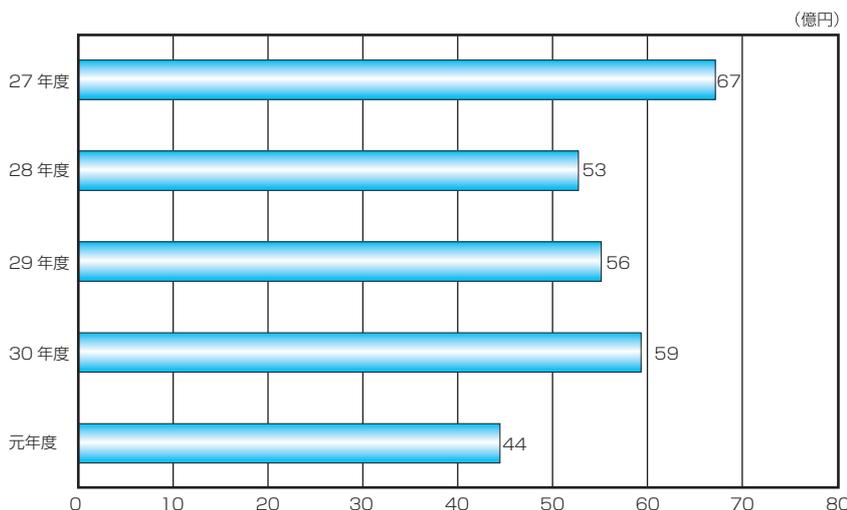
基金は、一般家庭の貯金に相当するもので、左の3基金については、必要に応じて積立てや取崩しを行っています。

この3基金は、少子高齢化、人口減少、社会保障関係経費の増加、公共施設等の適正管理、災害などに対処していくために必要な財源です。

元年度の残高は、前年度から36億円減少し、304億円になりました。(市民一人あたり5万円となりました。)

実質収支の推移

元年度は 44 億円の黒字を確保



【実質収支のポイント】

事務事業のしゅん別や見直し、経費の効率的な執行を行ったほか、可能な限りの財源の確保に努めたことなどにより、元年度決算では、44億円の黒字額を確保し、引き続き、健全財政を維持することができました。

■用語メモ

「実質収支」とは、その年度の決算で、収支が赤字か黒字かを示す指標で、歳入と歳出の差引額から、翌年度へ繰り越すべき財源を差し引いた額をいいます。

令和元年度決算のまとめ

本市の元年度決算は、前年度に引き続き黒字を確保し、実質的な市債残高を減少させた一方で、基金残高が減少しましたが、健全な財政運営を維持する中で、さまざまな施策を積極的に推進し、市勢の発展と市民福祉の向上に努めました。

今後見込まれる社会保障関係経費の増大など、財政状況は、厳しさを増していくと思われませんが、プライマリーバランスの黒字を確保しながら、可能な限り、各面からの財源を確保し、事業のしゅん別や見直しを行い、健全な財政運営に努めていきます。

■用語メモ

「プライマリーバランス」とは、借金(市債)を除いた歳入と返済(元金)を除いた歳出を比較したもので、歳入の方が多くなければ黒字となり、財政が健全であることを示します。

★予算や決算の状況は、

市ホームページ(【トップページ】→【市政情報】→【予算・決算・財政】→【財政状況】)をご覧ください。

<http://www.city.kagoshima.lg.jp/>

健全化判断比率と資金不足比率

※毎年度、「健全化判断比率」と「資金不足比率」の公表が義務付けられています。

● 健全化判断比率

【健全化判断比率のポイント】

市の財政の健全度を測る指標の一つで、基準を超えた場合、計画を定めて財政対策に取り組むこととなります。すべての項目で、早期健全化基準内となっています。

4指標	内 容	元年度決算（速報値）		早期健全化 基準 (100-カード)	財政再生 基準 (レッドカード)
			中核市順位		
実質赤字比率	一般会計などの実質赤字の比率	—	—	11.25%	20.0%
連結実質赤字比率	全会計の赤字や黒字を合算した実質的な赤字の比率	—	—	16.25%	30.0%
実質公債費比率	借入金（地方債）の返済額やこれに準じた額の大きさを示す比率	2.5% (2.3%)	11位/58市 (10位/54市)	25.0%	35.0%
将来負担比率	一般会計などの地方債や将来支払う可能性がある負担などを加味した実質的な負債の比率	30.0% (23.9%)	25位/58市 (22位/54市)	350.0%	

※（ ）内は 30 年度決算

● 資金不足比率

【資金不足比率のポイント】

公営企業会計の財政の健全度を図る指標で、基準を超えた場合、計画を定め、経営改善に取り組むこととなります。元年度決算では、昨年度に引き続き、資金不足が生じている会計はありません。

公営企業会計	元年度決算	経営健全化基準
病院事業 交通事業 水道事業 工業用水道事業 公共下水道事業 船舶事業 中央卸売市場 桜島観光施設	— (—)	20.0%

※（ ）内は 30 年度決算

～「かごしま市決算のあらまし」の作成に当たって～

60万市民の皆さんからお預かりした大事なお金。

市民と協働のまちづくりを進めていくために、大切にに使わせていただきました。

これからの「予算」だけでなく、取組の成果である「決算」を見やすく、わかりやすくお伝えし、あすの鹿児島市につなげていくために「令和元年度決算のあらまし」を作成しました。

市政の主役である市民の皆さんのさまざまなご活躍を、健全財政の維持と創意と工夫に満ちた行財政運営で、これからも支えてまいります。

令和元年度決算のあらまし

編集／発行：鹿児島市財政課

〒892-8677 鹿児島市山下町 11-1 ☎099-216-1155

リサイクル適性の表示：紙へリサイクル可